

2016年度 日本人間工学会関西支部春季講演会のご案内

日本人間工学会関西支部では、以下の春季講演会を企画いたしました。会員、非会員にかかわらず、広く人間工学分野、ならびに医療・健康・福祉分野のご関係者、そしてこれから社会で活躍する学生の方々にも、お誘いあわせの上ご参加いただければ幸いです。

講演 1：「ポジティブ健康心理学～幸せのレシピは健康にも好影響をもたらす～」

講演 2：「年を取ることは、ポジティブなことなのか」

[日時] 2017年3月25日(土)

14:00～15:00 第一部 講演会

15:00～16:00 第二部 講演会

※役員の方は、12:00～13:00の会議にご参加ください

※会員の方は、13:00～14:00の関西支部総会にもご参加ください

[会場] 大阪工業大学 OIT 梅田タワー 大阪府大阪市北区茶屋町1丁目1番45号
2階セミナー室203

<http://www.oit.ac.jp/rd/access/index.html>

[第一部テーマ]

ポジティブ健康心理学～幸せのレシピは健康にも好影響をもたらす～

[第一部講師]

山田 富美雄 先生

関西福祉科学大学 心理科学部

[講演概要]

ポジティブ心理学は多くの人々をターゲットとし、幸福感を高めるために有効な要因を実証的に研究し、幸福感の増加が種々の健康増進に好影響を与えることを実証してきました。この講演では、ポジティブ心理学の歴史、幸福感の評価方法、幸福感を高める要因、基礎的研究と応用領域について概観します。こうしたポジティブ心理学が、モノ作りや、働く環境作りの場において、幸福感を高める基本的なコンセプトになり得るかについて私見を述べたいと思います。

ポジティブ心理学は、M.Seligmanによって1998年に打ち立てられました。まさに20世紀から21世紀にかけての心理学の実社会への華麗なチャレンジだったとおもいます。TEDでの彼のスピーチでは、幸せは①快感情、②フロー体験、そして③人生への意味づけが基本だと述べられています。これはまさに20世紀最後の20年間に私たち日本人が開拓してきた快適性を基本コンセプトとするモノ作り、作業環境設計の思想とみえないことはありません。少し歴史を振り返りながら、今現在の心理学、なかでもポジティブ心理学についてかんがえてみようではありませんか。

[第二部テーマ]

年を取ることは、ポジティブなことなのか

[第二部講師]

権藤 恭之 先生

大阪大学 大学院人間科学研究科

[講演概要]

加齢にはどうしてもネガティブなイメージが付いてまわります。実際に加齢に伴って視聴覚機能の低下、体力の低下、記憶力の低下といった生理的な側面から、定年退職や家族や友人との死別や社会的なつながりの縮小といった社会的な側面まで、幅広い領域における喪失を経験します。普通に考えると、これらの喪失経験は気分がよいもではないし、多くの人は喪失に対してネガティブな反応をします。しかし近年、高齢者はこのようなネガ

ティブな経験が増えるにも関わらず、ポジティブ感情や人生満足感が高いことが報告されています。こうした現象はエイジングパラドックスと呼ばれ、その背景メカニズムに関する研究が進んでいます。

本報告では、加齢変化の基本的な特徴を紹介するとともに、どうしてエイジングパラドックスと呼ばれる現象が観察されるのか、いくつかの理論を紹介します。それに加えて、報告者がこれまで行ってきた研究知見を紹介します。

[参加費]

日本人間工学会会員（関西支部会員含む）・学生 無料
非会員 ¥500（当日受付にてお支払い下さい）